

新年感謝祈禱

司輔詠

君や、祝讃せよ。

父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に。

アミン。

天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の穢
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦

聖三祝文、至聖三者、主経

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を憐めよ。(三次)
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨を
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨を
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋國と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

主憐めよ(三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

來たれ、我等の王神に叩拝せん。

來たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

來たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第六十四聖詠

神よ、讃頌はシオンに於て爾に屬し、盟はイエルサリムに於て爾に償われん。爾は祈祷を聽く、凡の肉身は爾に趨り附く。不法の行は我に勝ち、爾は我等の罪を浄めん。爾が選び近づけて、爾の庭に居らしむる者は福なり。我等は爾の家、爾の聖殿の福に厭き足らん。義判に於て畏るべき者よ、神、我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃よ、其力にて山を建て、機能を帶ぶる者よ、海の騒、其波の聲、及び諸民の乱を鎮むる者よ、我等に聽き給え。地の極に居る者は爾の休徵を畏れん。爾は朝夕を起して爾を讃榮せしめん。爾地に臨みて、其渴を止め、豊に之を富ましむ、神の流には水盈ち、爾穀物を備う、蓋此くの如く之を作れり、爾其畎に飲ませ、其塊を平げ、雨の滴を以て之を柔らげ、祝福して芽を出さしむ。爾の恩沢を以て年に冠らせ、爾の歩には膏滴る、即郊邊の牧場に滴り、丘は喜を帶ぶ、草原は獸の群を衣、谷は穀物にて蔽われ、歎び呼びて歌う。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光榮は爾に帰す。（三次）

大聯祷

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。（以下毎次同様）

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。

教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

我が国の天皇、及び國を司る者の為に主に祈らん。

此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。

慈憐を以て我等不当なる諸僕（婢）の今の感謝と祈祷とを其天上の祭臺に受け、宏恩なるに因りて我等を憐むが為に主に祈らん。

輔輔輔輔

輔輔詠輔

輔

よ
善く我等の祈を納れて、我等と其衆人とに去年の中に犯しし自由と不自由との
悉くの罪を赦すが為に主に祈らん。

仁愛の恩寵を以て、
今年の始と其日を送ることとに福を降し、天下の泰平、氣
候の順和なること、及び我等に罪過なく、壯健に満足して生を度ることを賜る

我等の罪に依りて、凡そ義に稱いて我等に臨む怒を遏めるが為に主に祈らん。

凡そ靈を害する欲と敗れたる風俗とを我等より遠ざけ、心を納めて、其の戒めを守らむが爲め此主所づん。

正しき靈を我等の衷に改め、我等を醇正の教に固め、善事を行い、其凡の

誠の異端者を守るに熱心なる者となすが為に主に祈らん。
およほ、アマヌキ、トコロ、チユン、正の教とけいへん
およそ王教

に背きし者を眞理を知るに轉ぜしめて、彼等を聖なる教会に合すが為に主に祈ら

元より故会二戎等衆人ニモおよそ
の憂れ火い二、
間宣告わざわい二、
か又り二、
アヤラウキアヤラウキ、
及ズレヒトヒト

聖なる教会と我々の心の月の夢想の福音の教訓をもたらすが、見ゆると見えざる諸敵より脱れしめ、其信者に壯健と、長壽と、平安とを賜い、

しよてんし
しゆう
はま

諸天使の守護を以て、常に我等を護るが為に主は祈らん
神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、

い詠の聖人とを記憶して 我等の身及び互いは各の身を以て
生命を以て、ハリストス神に委託せん

主爾に。

蓋凡そ光榮尊貴併拝は爾父と子と
聖神に帰す
今も何時も世世に

主は神なり

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。
(句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。
(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。
(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

(句) 工師こうしが棄きてし所の石は屋隅おくぐすの首石となれり、是主これのなす所にして我等の目に奇異きいなりとす。

トロパリ（第四調）

主や、我等爾の不当の僕婢たる者、爾の大なる恩を被るに由りて、感謝の心を抱き我等に恩を賜う救世主や、光栄は爾のもの為りと。

光栄は父と子と聖神に帰す、（第三調）

主宰や、我等至つて当たらざる僕婢、爾の恩と賜物とを被りて、熱心を以て爾に走りつき力に応じて感謝を献り、爾を恩を賜う主と造物主たるを讃め揚げて呼ぶ、至つて廣き恵の神や、光栄は爾のもの為りと。

今も何時も世に、アミン。（第二調）
時と歳とを己の權内に置き給いし萬物の造成主よ、爾の恩澤を以て年に冠らせ、生神女の祈祷に因りて、天皇及び国を司る者と爾の城邑とを平安に守りて、我等を救い給え。

輔誦輔誦詠誦詠誦詠
謹みて聴くべし。
衆人に平安。
爾の神にも。
睿智。

我恩を施す主を讃め頌い、至上なる主の名を崇め歌わん。
我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。
我が心爾の救を喜ばん。
我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。
我恩を施す主を讃め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。
睿智。

聖使徒。パワエルがティモフェイに達する前書の読み。
慎みて聴くべし。

ボロキメン

書

札

(ティモフェイ前書 二・一・一六)

誦

「子テイモフェイよ、我凡の事に先だちて勧む、衆人の為、帝王及び凡そ権を操る者の為に、祈祷、祈願、懇求、感謝を為さんことを、我等が凡の敬虔と聖潔とを以て、平安にして穏静なる生を度らん為なり、蓋此れ我等の救主、神の前に善にして納れる事なり、彼は衆人が救を得、及び眞実を知るに至らんことを欲す。蓋神は一なり、神と人との間には仲保者も亦一なり、乃人ハリ世世に歸す。アミン。」

爾に平安。
爾の神にも。
睿智。

輔詠司詠輔詠司

「アリルイヤ」(第四調)
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。
我等に聖福音經を聴くを賜うを主神に祈らん。

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

司

詠

輔

詠

詠
主や、光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す。
目を注げり。彼宣べ始めて曰えり、此の爾等が聴きし所の書は今應えり。
衆皆之を證し、且其口より出づる恩寵の言を奇とせり。」

重聯補

我等皆靈を全うして曰わん、我等の思を全うして曰わん。

主憲

主全前者吾が列祖の神々
爾に祀る
聞き紹れて悔ぬよ

神や、爾の主

主憐めよ。(三次)

又我が国の天皇、及び国を司る者の為に祈る。

又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教（某）、主教（某）、

及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

主宰、主、我等の救世主よ、我等不当の僕（婢）として、
畏れ戰き、爾が豊に

其諸僕（婢）に注ぎたる諸恩の為に、爾の仁慈に感謝して俯伏し、爾に神に適ひ

たる讚揚を奉り、傷感の情を以て籠ぶ、爾の諸僕のぞみ（婢かな）に諸の禍を免のぞる。」

れしめ、其慈憐なるに因りて、常に我等衆人の善き望を應え給え。熱心にして

爾に祈る。聴き納れて憐めよ。

爾の仁慈を以て今來たりし年の始めに祝福し
我等の内に凡の不和と不整理とを去り
争ひを治め、或等に如平、又國に如モ
爲ひよき愛、王を整理、とく

緑翁とを治め、我等は和平と堅固にして、俗なき愛と正しき整理と、
行の度、主を揚つんことを、至善なる主は、爾て所る、冷き納れて、隣めは。

去年のうちに有りし我等の數え難き不法と惡事とを意わず、我が行に由りて我等

に報いずして、仁愛と宏恩とを以て我等を顧みることを、慈憐なる主よ、爾に

祈る、聆き納れて憐めよ。

時に合ひたる早く又晩き雨、
豊稔の露、
穏静にして順和なる風を與え、
日の温暖ひ

を輝かすことを、宏恩なる主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

爾の聖なる教会を記憶して、之を強くし、之を固くし、之を弘め、之を平和にし、之を地獄の門に悩まされず、見ゆると見えざる諸敵の悉くの悪謀に破られざる

輔
輔
者として世世に護らんことを、全能なる主宰よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。
凡そ異邦の幽暗を滅して、未だ爾を知らざる諸民を眞の福音経の光にて照さ
ことを、大有能の主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

司
司
我等に此の來りし年と、我が生命の悉くの日に於いて、飢饉、疫病、地震、
水難、火難、雹害、劍難、外攻、内乱、及び死を招く諸害と、凡の憂愁と危難
とを免れしめんことを、慈愛なる主よ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。
神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、
我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐めよ、蓋爾は仁慈にして人を愛す
る神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。

アミン。
我等膝を屈めて、復又主に祈らん。

司
司
主憐れめよ。(三次)

祝

文
主宰我等の神、生命と不死との源、見ゆると見えざる萬物の造成主、時と歳と

を己の権内に有ち、爾の睿智にして至善なる攝理を以て萬有を宰どる主よ、我
が生命の過ぎ去りし日に於いて我等に頤しし爾の奇妙なる恩恵の為に我等爾に
感謝す。宏恩なる主よ、爾に祈る、爾の仁慈を以て今來りし年の始めに祝福し、
我が國の天皇及び國を司る者を護り、其生命の日を増加して、常に彼等を壯健に
し、萬徳に於いて彼等に進歩を賜え。爾の衆民にも上より爾の善福、壯健と救贖、我
及び萬事に於いて善き進歩を與え給え。爾の聖なる教会、此の城邑と、悉くの
城邑と地方とを、諸の禍より脱れしめて、此等に平安と穏静とを賜え。願わ
くは我等に常に爾無原なる父と、爾の獨生の子と、至聖にして生命を施す爾の神、
一體に於いて讚美せらるる神に感謝を奉り、爾の至聖なる名を讃め歌うを得し
め給わん。

〔高聲〕 光榮は爾、神、我等の恩主に世世に帰す。
アミン。

大詠頌

(聖歌譜に倣つて)

至高には光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、主天の王、神父全

詠

〔高聲〕 光榮は爾、神、我等の恩主に世世に帰す。

能者や、主独生の子イイスス・ハリストス及び聖神や、爾の大いなる光栄に因つて、我等爾を崇め、爾を讃揚げ、爾を伏拝み、爾を尊歌い、爾に感謝す、主神や、神の羔父の子、世の罪を荷いし者や、我等を憐み給え、世の諸の罪を荷いし者や、我等の祈りを納れ給え、父の右に坐する者や、我等を憐み給え、爾はひとり聖なり、爾は独り主イイスス・ハリストス神父の光栄を顯す者なればなり、アミン。

我日日に爾を讃揚げ、爾の名を世世に崇め歌わん。

主や、我等を守り、罪なくして此の日を渡らせ給え、主我が先祖の神や、爾は崇め讃められ爾の名は世世に尊み歌わる、アミン。

主や、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え。

主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。(三次)

主や、爾は世世、我等の避所たり、我嘗て言えり、主や、我を憐み、我が靈を癒し給え、我罪を爾に得ればなり。

主や、爾に趨りつく、爾の旨を行うを我に教え給え、爾は我の神、生命の源は爾に在ればなり、爾の光に於いて光を見ん、憐を爾を知る者に恒に垂れ給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

聖なる常生の者や、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。

※(「大詠頌」に代えて、欲すればメディオランの主教聖アムブロシイ作の左の歌を歌う。)

我等爾神を讃め揚げ、爾主を崇め讃む、全地は爾永遠の父を尊む、衆神使と諸天と衆軍とヘルワيمとセラフィム等は絶えざる声を以て爾に呼ぶ、聖、聖、聖なる哉主神サワオフ、天地は爾の威厳なる光栄に満つ、至りて光栄なる使徒の会、讃美たる預言者の隊、光明なる致命者の軍は爾を讃め揚げ、聖なる教会は全世界に於て、爾悟り難き威厳の父、拝まるる爾の眞の独生子、及び撫恤者聖神を崇め讃む。ハリストスや、爾は光栄の王、爾は父の永在の子なり。爾は人を救わんと欲して童貞女の腹を忌まざりき。爾は死の針を折りて、信ずる者の為に天国を啓けり。爾は父の光栄に在りて、神の右に坐し、我等は爾が審判者として来らん事

を信す。故に爾に求む、爾が尊き血にて贖いし爾の諸僕（婢）を助けて、爾の業諸聖人と偕に、爾の永遠の光栄に王たらしめ給え。主や、爾の民を救い、爾の業に福を降し、之を改めて、世世に上げ給え。我等ひびに爾を讃め揚げ、爾の名を世世に崇め歌いて、今より永遠に至らん。主や、我等を守り、罪なくして此の日を渡らせ給え。主や、我等を憐み、我等を憐めよ。主や、爾を恃むに因りて、爾の憐みを我等に垂れ給え。主や、我等爾を恃めり。願わくは世世に辱を受けざらん、アミン。

睿智。
えいぢ。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラファイムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

ハリストス神我等の恃や、光栄は爾に歸す、光栄は爾に歸す。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

福を降せ。

司 詠 司 詠 司 輔

司 詠 司 詠 司 輔

我等の救の為に、第八日に於て、甘じて肉体の割礼を受け給いしハリストス我等の真の神は、其至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亞使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

幾歳も

司 詠 司 詠 司 輔

主よ、今此處に立ちて祈る爾の諸僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壯健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。幾歳も。（三次）